



4月22日

その1

統括センター・営業統括センターの設立について提案を受ける！

地本は、統括センター・営業統括センターの設立について提案を受けました。目的はJR東日本を取り巻く環境及び経営状況の急激な変化を踏まえ、グループ経営ビジョン「変革2027」の目指す「鉄道起点」から「ヒト起点」へのビジネスストーリーの転換を実現するため、システムを超えて社員一人ひとりの活躍フィールドを拡大し、新たな価値を創造していく 必要があるとしています。

1 実施内容及び実施日(エリア区分は別紙1のとおり)

(1) 2022年7月1日実施(第1期)

東京営業統括センター、新宿営業統括センター、中野営業統括センター、上野営業統括センターを設立する。

※東京・新宿・上野の各営業統括センター内にマネジメントオフィスを置く。

(2) 2022年11月1日実施(第2期)

新橋営業統括センター、品川営業統括センター、池袋営業統括センター、赤羽営業統括センター、松戸営業統括センターを設立する。

(3) 2023年6月1日実施(第3期)

御茶ノ水営業統括センター、蒲田営業統括センター、大崎営業統括センター、渋谷営業統括センター、田端統括センター、北千住営業統括センター、柏営業統括センターを設立する。

2 体制について

(1) 第1項第1号の営業統括センターの体制は別紙2のとおりとする。

(2) 第1項第2号及び第3号の統括センター・営業統括センターの体制は別途お知らせする。

3 その他

(1) 新日本橋駅は、2022年度内に駅業務全般委託を実施する。

(2) 第1項第2号及び第3号の統括センター・営業統括センターの名称は仮称であり、今後変更となる可能性がある。

(3) 施策実施に向けた必要な準備を進めていく。

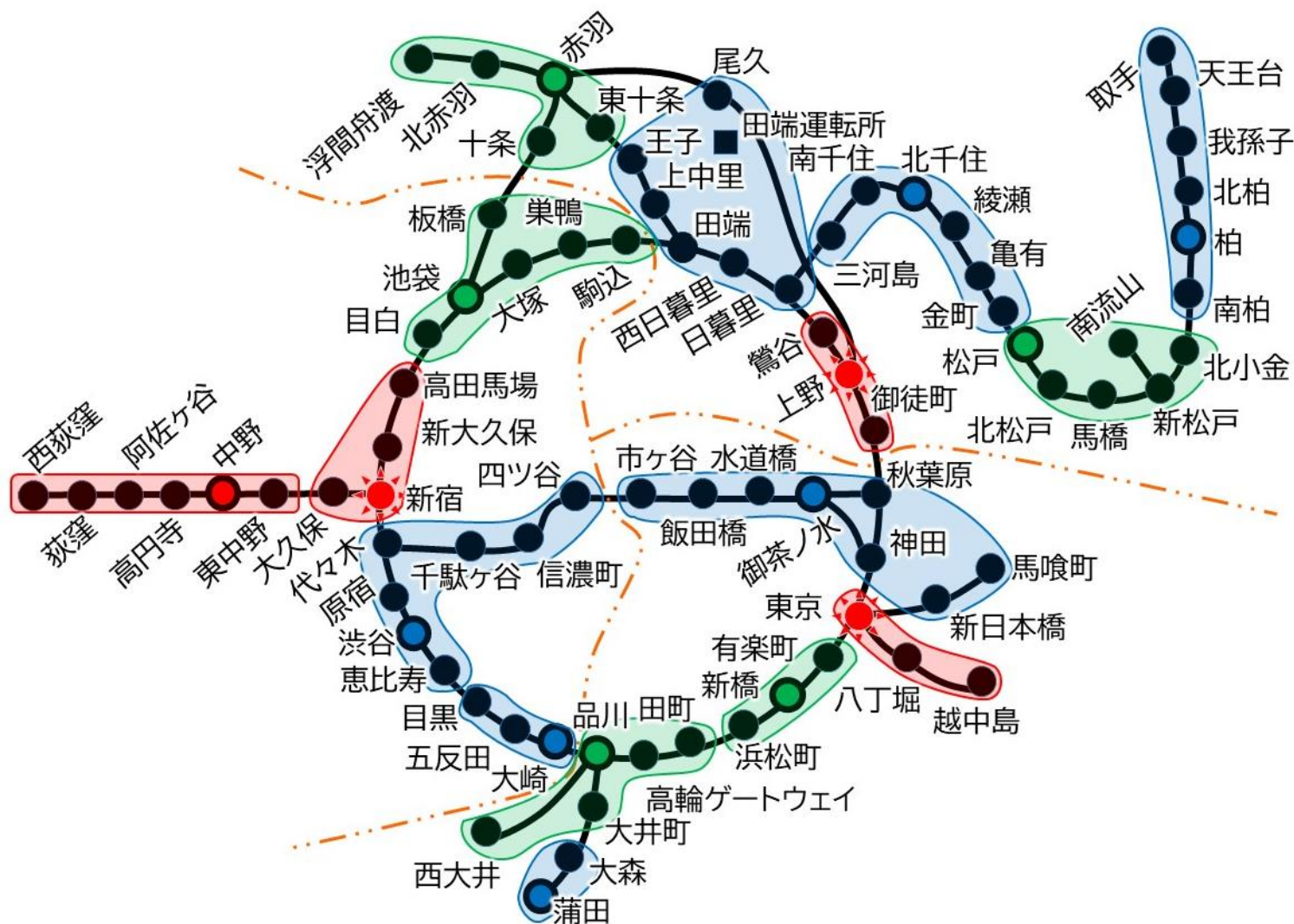


4月22日

その2

統括センター・営業統括センターの設立について提案を受ける！

【別紙1】



2022年7月1日実施(第1期)

- 東京、新宿、中野、上野の各営業統括センターを設立する。
- ★ 東京・新宿・上野の各営業統括センター内にマネジメントオフィスを置く。

2022年11月1日実施(第2期)

- 新橋、品川、池袋、赤羽、松戸の各営業統括センターを設立する。

2023年6月1日実施(第3期)

- 御茶ノ水、蒲田、大崎、渋谷、北千住、柏の各営業統括センター、田端統括センターを設立する。



統括センター・営業統括センターの設立について提案を受ける！

【別紙2】		現 行			記事			改正			記事
		変形等	交代	計				変形等	交代	計	
東京 駅	管理	14	5	19		東京営業統括センター	管理	23	5	28	新 設
	一般	33	63	96			一般	39	63	102	
東京地区指導センター	管理	11		11	廃 止	新宿営業統括センター	管理	21	5	26	新 設
	一般						一般	36	67	103	
品川地区指導センター	管理	10		10	廃 止	中野営業統括センター	管理	8	6	14	新 設
	一般						一般	3	27	30	
新 宿 駅	管理	12	5	17		上野営業統括センター	管理	18	4	22	新 設
	一般	33	67	100			一般	20	33	53	
新宿地区指導センター	管理	10		10	廃 止	※業務の繁閑等に応じて1日当たりの出面数 （作業ダイヤ数）を柔軟に設定する。 ※上長の指示で管理者が一般社員の業務を行うことや 一般社員が管理者の業務を行う場合がある。					
	一般										
中 野 駅	管理	3	2	5							
	一般	4	15	19							
高 円 寺 駅	管理	1	1	2							
	一般		2	2							
阿 佐 ヶ 谷 駅	管理	1	1	2							
	一般		2	2							
荻 窪 駅	管理	2	1	3							
	一般		6	6							
西 荻 窪 駅	管理	1	1	2							
	一般		2	2							
上 野 駅	管理	9	4	13							
	一般	16	33	49							
上野地区指導センター	管理	10		10	廃 止						
	一般										
松戸地区指導センター	管理	10		10	廃 止						
	一般										

※業務の繁閑等に応じて1日当たりの出面数

(作業ダイヤ数)を柔軟に設定する。

※上長の指示で管理者が一般社員の業務を行うことや
一般社員が管理者の業務を行う場合がある。

◆提案時の主な議論

輸送サービス労組	会 社
◆7月1日第1期として、東京営業統括センター、新宿営業統括センター、中野営業統括センター、上野営業統括センターを設立する前に、第2期、第3期の提案を行った理由は何か。 ◆<u>第1期の営業統括センター設立後、検証を行ったうえで進めるべきだ。</u>	◆昨年の12月に東京営業統括センター、新宿営業統括センター、中野営業統括センター、上野営業統括センターを設立の提案を行った。現場でも 疑問や不安があったため、設立前に早く知らせることで、社員一人ひとりが新しい会社をつくるという期待も込めて提案した。 ◆否定はしない。<u>ワーキンググループで議論を行い、第2期を迎えるようにはしていくと同時に社員の参画も促していく。</u>



4月22日

その4

統括センター・営業統括センターの設立について提案を受ける！

輸送サービス労組

- ◆ 今回の統括センター・営業統括センターのエリア 分けの考え方は何か。
- ◆ 第2期、第3期に分ける理由は何があるのか。
- ◆ 人材育成の考え方は何かあるのか。
- ◆ 指揮命令系統はどうなるのか。
- ◆ 統括センター・営業統括センターの規模について、社員数、業務量のどちらをみているのか。
- ◆ 田端運転所を含めた田端統括センターを設立する理由は何か。
- ◆ 田端運転所と尾久車両センターの統合について団体交渉を行ってきたが、今回の統括センターについては考え方が示されなかった理由は何があるのか。
- ◆ 田端運転所と尾久車両センターの統合の考え方は、団体交渉の考え方で変わりはないか。
- ◆ 業務の繁閑によって 1 日あたりの出面数を柔軟に設定するとはどういうイメージなのか。
- ◆ 2 ヶ月前に判断して勤務指定するということなのか。
- ◆ 委託先で働くことはあるのか。
- ◆ 出向も活躍フィールドの拡大の一つと考えているのか。
- ◆ 職場に配属される社員数は、作業ダイヤを基に算出するという考え方は変わらないか
- ◆ マネジメントオフィスの社員数は何人か。
- ◆ 新日本橋駅の駅業務全般委託については別途 提案すべきだ。
- ◆ 今後、エリアの拡大・縮小はあるのか。

会 社

- ◆ エリアのくくり方については①輸送の安定性②業務実態③規模④地域の特情を総合的に勘案して決定をした。
- ◆ まとめて設立となると、整理や業務が集中し難しいことから期日を分けて設立する。
- ◆ 運転取り扱い業務だけではなくホーム業務を経験することによって様々なスキルを身につけられると考えている。
- ◆ 営業統括センター内で発生した問題については、営業統括センターで解決することになるが、解決に至らない場合はマネジメントオフィスが支援し、支社、本社となる。
- ◆ 社員数、業務量(作業ダイヤ)の両方をみている。
- ◆ 田端運転所は駅との業務の融合・連携が最適な エリアとして判断した。
- ◆ 変化に対応していかなければならない。その中で業務内容も見直す必要がある。
- ◆ 変わりはない。
- ◆ 繁忙期、閑散期で必要な体制は変わってくるため、上長の指示によって、繁忙期には多く出勤して閑散期には休むなど、柔軟に対応することを考えている。
- ◆ そうだ。急遽対応しなければならなくなった場合は勤務変更や休日出勤などで対応することもゼロではない。慎重に判断していく。
- ◆ 出向しない限り、委託先で働くことはない。
- ◆ 出向は人材育成の考え方である。活躍フィールドの拡大は直営駅における業務の融合や乗務員区との兼務・連携である。
- ◆ 変わらない。
- ◆ マネジメントオフィスの社員数は営業統括センターの提案箇所体制に含まれており、業務量で示している。
- ◆ 情報提供として示した。別途提案は行う。
- ◆ 業務の内容によっては様々なケースがあり、可能性としてはあり得る。

鉄道の安全性・専門性を前提に

働きがい・生きがいを実感できる職場ために議論をつくり出します！